

■ 令和 6 年度 第 1 回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定委員会 議事録

○ 日 時：令和 6 年 6 月 18 日(火) 19:00 ～ 20:35

○ 場 所：香南市役所 3F 303～305

○ 出席者(委員)

石筒委員・石丸委員・小笠原委員・中道委員・門田委員・國常委員・高木委員・北委員
北山委員・古川委員・上田委員・廣岡委員・江口委員・別府委員（14/15 名）

○ 出席者(市行政)

濱田市長、企画財政課(西内課長・近藤課長補佐・小林係長・宮崎主幹)
地域支援課(弘田課長)、健康対策課(竹村課長補佐)、福祉事務所(坂本所長・森主幹)
商工観光課(萩野課長・府川補佐)、農林水産課(小松課長)、学校教育課(小松課長)
住宅政策課(浜田課長・楠瀬主査)、情報政策課(中島課長、中屋課長補佐)
子ども課(猪原課長・岡田主事)、

○ 傍聴者 … 3 人(メディア関係者含む)

1. 開 会

(企画財政課 小林係長)

お時間になりましたので、ただいまから、令和 6 年度第 1 回香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を開催させていただきます。

私は本日司会を務めさせていただきます企画財政課の小林です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日は平日の晩というところ、またご多用のところ、本策定委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、委員のみなさまにおかれましては、本策定委員会の委員をお引き受けいただき、誠に感謝申し上げます。

今年度より、新しい委員さんとともに新しい戦略の策定を目指していくこととなっております。

今回 15 名中 10 名の方に、新しい委員としてご参画をいただくこととなりました。

女性の方が半数以上であり、子育て中の方、子どもに携わることが多い方、また、移住経験がある方、首都圏企業でご活躍をされている方等、様々な方にご参画をいただいております。

当市のこのような会の中におきましても、かなり新しい委員構成のもと、本日を迎えられるてございます。お引き受けいただきましてありがとうございます。

なお、本来であれば、この後、当市市長より、みなさまに委嘱状をお渡しさせていただくような流れになりますが、お時間の都合上、本日は机の上に委嘱状をお配りさせていただいておりますことをご了承いただければと思います。

次に、委員の欠席等のご連絡をさせていただきます。本日は北川委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご了承ください。

さて、本日の会は、参考資料 1 の設置条例、第 6 条第 2 項の規定に基づき、半数以上の委員にご出席をいただいておりますので会が成立いたしますことをご報告いたします。

それでは開会にあたりまして、濱田市長よりご挨拶をいただきます。

2. 市長挨拶

(濱田市長)

みなさまこんばんは。本日は、平日のお忙しい時間帯に多くのみなさまに集まっていたことに、感謝を申し上げたいと思います。

香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略という、これまでは高知大学の受田先生に携わっていただき、

立ち上げよりご尽力をいただいておりますが、受田先生が高知大学の学長という職に就かれたことで、今回、石筒先生にお話をさせていただき、お引き受けをいただきました。

石筒先生のこれまでの地域を盛り上げる、そういったフィールドワークや現場の声というものを的確に捉え、また、それを進めていく、そういったお力をお借りして、この総合戦略というものを進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

そして、先ほど小林の方からお話がございましたとおり、委員のみなさまも本当に新たな顔ぶれ、そしてまた女性の方、若い方、移住されてこられた方等、まさに多様な方々にご参画いただくことは、非常に香南市らしいのではないかと思います。

さて、委員のみなさまもご承知のとおり、日本の現状を取り巻く環境というのが、昨年 6 月の頭に報道がありましたとおり、日本全国で、昨年生まれた子どもの数が 72 万人。報道によると、今年度、2024 年は 70 万人を切るのではないかとこのように言われております。

本県におきましても出生数が 3,300 人ということで、これまでになかったような衝撃的な少子化というものを迎えております。

その中において、香南市というのは、高知県の中においては人口減少率というのが非常に低いわけがございます、私としては、可能性に満ち溢れたまちというように自負しておるところでございます。

この香南市をいかにこれから前に進めていくのかということに差し当たり、今回の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というものが、まさにその中心を担っていく場だというふうに思っております。

そのために、新しい方々、そして、これまでもお引き受けいただいた石丸委員のように、香南市をこれまで長きに渡って、産業の面で、農業の面で引っ張っていただいた、そういった先輩のご意見も賜りながら、新たな知識、そして新たな考え方というものを導入していきたいと思っております。

話が長くなりますが、現在、南国市議会が開会されており、南国市も 18 歳まで医療費を無料化するとこの報道がありました。

香南市はこの 4 月より同様の施策を始めておりますが、今まさに、どこの市町村長も、本当に我慢比べをしているような状況であります。

県も新しい交付金を作られ、様々な市町村が、独自のやり方で、人口減少問題に挑んでいるところでございますが、本当にみんな、我慢比べがどれくらいできるのかというところであります。

しかし、私といたしましては、我慢比べではなく、そのさらに先の人口減少対策や香南市をいかに多様性豊かな、そして多くのみなさまに来ていただけるようなまちづくりというものを進めていきたいと思っております。

そのために最適な人材に、今回、ご参画いただいているというふうに承知をしております。

来年度から始まる新たな「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の土台づくりにどうかご尽力・ご協力のほどお願いを申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願い致します。

3. 自己紹介

(企画財政課 小林係長)

ありがとうございます。

次に、初めての委員さんも多いことから、お手数ですが、石筒委員より、右まわりで一言ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。

※ 石筒委員より順番にご挨拶をいただく。

4. 委員長・副委員長 選出

(企画財政課 小林係長)

ありがとうございます。

委員のみなさまの任期は令和 9 年 3 月 31 日までとなりますがどうぞよろしくお願いいたします。
次に、委員長、副委員長の選出に移りたいと思います。

参考資料 1 の策定委員会設置条例第 5 条の規定にありますとおり、委員長、副委員長は、委員の互選により定めることとしておりますが、委員長に立候補される方いらっしゃるでしょうか。

※ なし

副委員長に立候補される方はいらっしゃるでしょうか。

※ なし

いらっしゃるようですので、事務局案といたしまして、委員長に石筒委員、副委員長に、別府委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

※ 承認

(企画財政課 小林係長)

ありがとうございます。それでは、委員長、副委員長より一言いただきたいと思います。

(石筒委員長)

委員長を務めさせていただきます石筒です。

委員長という形ではありますが、どちらかという、皆さんのご意見等を取りまとめていくというような役割よりも、皆さんのアイデアを一緒になって考えていく立場でいきたいなという思いです。よろしくお願いします。

(別府副委員長)

今回の総合戦略の策定にあたっては、市役所だけではなく、本当に市民の皆さんと一緒に香南市の未来を見据えて、作っていかれたらと思っています。よろしくお願いいたします。

5.議 事

(企画財政課 小林係長)

ありがとうございました。

それではここからは議事に移らせていただきたいと思います。

ここからの進行につきましては、石筒委員長にお渡しをさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(石筒委員長)

それでは、議事に沿って進めさせていただきます。

議事の(1)香南市の取り組みについてお願いいたします。

(企画財政課 小林係長)

香南市の取り組みにつきまして、私の方から、香南市のこれまでの取り組みの説明を 5 分程度、そのあとに、本日紙ベースでお配りをさせていただいております当日資料等も活用し、当課近藤課長補佐より、「これからの取り組み」についてご説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

資料 1 の 1 ページをご覧ください。このページには、香南市の現在の総合戦略の構成を示しています。左の欄より、国の 4 つの方針、その方針を軸とした当市の基本目標を示しています。

その基本目標を達成するための基本的方向や分野が右から 2 番目に記載しており、その方向を盤石化

させるための市の各事業、施策が一番右の欄にあるイメージになります。

なお、右から 2 番目の基本的方向 や 取り組む分野 では、現在 14 の数値目標、KPI を掲げており、その 14 の数値目標を達成するために、右の欄になりますが 51 の各事業・施策があります。

本日の資料には付けておりませんが、各委員に事業の説明をさせていただいた際にお配りさせていただいております「総合戦略 数値目標及び重要業績評価指標(KPI)評価書」にすべての事業が掲載されておりますので、後ほどご確認いただけますと幸いです。

2 ページから 11 ページには、令和 6 年 2 月に開催された策定委員会でお示した、令和 5 年 10 月末までの進捗を示した資料を添付しています。

この資料は、先ほどお伝えさせていただいた、基本目標、基本的方向に関する数値目標 とそれに紐づく各事業・施策の進捗状況等を記載したものになります。

全ては、時間の都合上説明できませんが、見方として、例えば、2 ページをご覧くださいと、左上に、基本目標等が記載されています。このページには、基本目標 1 の「魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用と稼ぐ産業を創出する」の「(1)足腰を強め、「地力」を高める」に属する「農業の振興」についての取り組み状況を記載しています。

右上には、R5 年度の目標値である「新規農業者数」が掲載されており、10 人の目標に対し 8 人であったことを記載されています。

また、左の方に「取り組み状況」として、R5.10 月末までにこういった取り組みをしてきたかを各項目に分けて記載しています。この中で、特に進捗が良いものは「笑顔マーク」、悪いものは「泣いているマーク」をつけています。

右の欄には、R5.10 月以降にどう取り組んでいくかが記載されており、これまで、このような形で、委員のみなさまには取り組みをご確認いただき、ご意見や施策案等についてご意見をいただいております。

今年度の策定委員会では、先ほど説明いたしました、「基本目標」や「方向性」等に加え、そのすべてを包括するようなキーワードも、みなさまとともに作っていきたいと考えていますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

資料 12 ページ以降からは当課近藤課長補佐より、香南市のこれからの部分についてご説明をさせていただければと存じますのでよろしくお願いいたします。

(企画財政課 近藤課長補佐)

企画財政課課長補佐の近藤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは私からは 20 分ぐらいかかりますが、ご説明をさせていただきます。

まず、資料 1 の 12 ページからの香南の未来アンケートから見える姿についてご説明します。

このアンケートは、将来を担う子ども達に市の取り組みに関心を持ってもらいたい、子どもの内から、市の事を考えるきっかけをつくることで、香南市に対する愛着を高め、市の取り組む総合戦略が成果として「香南市で働きたい」「住みたい」「住み続けたい」「子育てがしたい」等定住に繋がっているかを知るために、第 2 期の優先的に取り組む施策として、始めたものです。第 2 期の 5 年間を経年で小中学生、18 歳の皆さんを対象に、総合戦略とはなんぞやが分かるパンフレットを配布して、アンケート調査を実施しており、今年で 5 年目となります。

こういった形の総合戦略の実施と、モニターしながら実効性のある行政施策として進めているというのが本市の特徴でもあります。

それでは今回は、アンケート調査の中にある自由筆記で回答された設問について、5 年度に分析しておりますので、ご紹介させていただきます。

全ての設問において、自由意見を A から E のカテゴリーに分けて、年度・年代別に円グラフにて回答結果の変化を見る化しています。

また、子ども達の要望に対応する市の取組として既に取り組んでいることや 5 年度の当初予算で新規、拡充しているものを写真やイラスト付きで掲載しております。

最初の 12 ページにある「香南市で不便なことがありますか」においては、小学生では、A の「遊ぶところが少ない」や C の「商業施設が少ない」の意見が多くなっており、中学生では、C の「商業施設が少ない」、また、18 歳については、母数が少ないですが、B の「公共交通が不便」に意見が集まっています。

また、子ども達の意見に対応する市の取組としては、「A. 遊ぶところが少ない」では、のいち動物公園に小学生以下の子どもと保護者が入場する際の入園料を無料にする取組や、野市の動物園の下段、もしくは野市総合体育館の上段にある「冒険の森」に木製遊具を増設する等、自然と触れあう遊び場の確保に取り組んでいます。

次の 13 ページでは、設問の「香南市で不便なところがありますか」の「はい」、「いいえ」の回答を 5 町別にわけて分析しました。円グラフの赤い部分が多いほど不便ということになります。

特徴的な部分では、香我美町の小学生では、お店や遊ぶところが少ないことが不便の原因となっており、香我美中学校になるとその傾向が強くなっています。

今年 2 月 9 日に A コープ跡地にコンビニができたことで、この傾向がどうなるか、令和 6 年度の調査で分かりますので、結果と分析ができ次第ご報告いたします。

また、夜須の小学生を見てみると不便の割合が一番少なくなっています。これは、ヤ・シィパークがあり小学生の遊び場の一つとなっていることが考えられます。

次の 14 ページでは「希望する仕事や夢の実現のために、市に対して希望することはありますか」の設問、さらにその次の 16 ページには「どうしたらもっと子育てがしやすいまちになる」の設問に対して自由意見を「見える化」しておりますので、目を通しておいください。

15 ページをお開きください。こちらは、2 月の委員会でアンケート結果の総括としてご報告した資料になります。

設問 13.「魅力的な働く場所があるか」と、問 17.「夢や希望する仕事は市にあるか」について 4 年間の分析をしております。

問 13 と 17 の小学生では、「はい」の回答が年々減少しています。

残念な結果として受け止めており、総合戦略で取り組んできた成果が現れていない状態です。

一方、18 歳の回答では赤丸で示した「はい」の回答を見てみると 3 年度から増加傾向になっています。このことから市内に魅力的な職場や希望する仕事があるという若者は、わずかではあるが確実に増加しており、総合戦略の取組が一定成果として現れているといえます。

今後、小学生においては市内の仕事を「知る」対策について一歩踏み込んだ施策の展開を図ることや、18 歳においては、回答率を上げる取組が必要だと考えています。

次の 17 ページでは、こちらも 2 月の策定委員会で報告した資料になります。

2 年度から 5 年度までの自由筆記での意見を、カテゴリー別に A から E に分類しています。

この年から、同一世代の調査となっており、当時小学 6 年生が中学 3 年生になって再び同じアンケートに回答しております。同じく当時中学 3 年生は 18 歳になって回答しているものです。

ここで紹介する設問は、18 ページ「将来の夢、仕事について 問い、希望する仕事や夢の実現のために、市に対して希望することはありますか」の設問です。

先ほど紹介した、「はい」、「いいえ」、「わからない」で回答した設問で「いいえ」「わからない」をさらに深掘りしたものと捉えています。

赤い枠で囲っている 2 箇所にて、2 回目の回答をした年代の変化をみてとれます。

2 年度の小 6 と 5 年度の中 3 では、青色の A「働く場所の増加」や黄色の B「働く場所の紹介」が年齢を重ねるごとに増加しています。

また、2 年度に中 3、5 年度に 18 歳では、青色の A「働く場所の増加」が増え、みどり色の C.「学ぶ場所の増加」が消えています。

この傾向は、成長するにつれ夢から現実へと近づいていることや、社会に対する知識が増えてくる中で、香南市で希望する働く場所が見つからないことの現れが自由筆記の意見から読み取れるかと思えます。

最後の 19 ページには、子育てについて「どうしたらもっと子育てがしやすいまちになる」について分析しておりますので、それぞれの年度や年代によっての変化を見ていただければと思います。

次に、本日お配りした、**当日配付資料の 1 ページ**をご覧ください。

こちらには、令和 5 年度の人口分析や市の財政状況を掲載しております。

総合戦略は、人口ビジョンで示された減少していく将来人口推計から今後目指すべき人口の将来展望として設定した 2060 年に 30,800 人という目標に向けて、さまざまな施策事業を、PDCA サイクルを通じて客観的な効果検証を行い人口減少の抑制を図るものですが、大変厳しい目標であることは、この

9年間の成果をみても理解できるのではないのでしょうか。

まず、「人口の推移」や、「将来人口の推移」をまん中の棒グラフから地区別に見ていただきたいと思います。みどりの野市が約1万8千人で現在の2024年3月末が約2万人、未来とある右の棒グラフ「このまま転出入や出生の傾向が続くと仮定した住民基本台帳からの推計」では、右端が約25年先の2050年で約1万9千人となっており、ほぼ人口は維持されています。

残りの4町については、全て人口減少となっており、過去の合併当初の2006年と現在の2024年の減少率は、香我美で11%、夜須で25%、赤岡で32%、吉川で30%となっております。

次に、現在の2024年と未来の2050年の減少率は、香我美で12%、夜須で60%、赤岡で56%、吉川で51%といった予想になっており、夜須赤岡吉川では、今後25年間で、人口減少が加速する予想となっています。

このような減少率で推移すると、近い将来、人口減少の大きい、地域の町内会や自治会は存続できなくなり、さらに半世紀後には旧町のどこかの地域が消滅する可能性があります。

なお、この未来の人口予想は、2014年を基準とした人口ビジョンの将来人口推計となっていることから、今年度に直近の人口動態を基準とした市全体や地域別の人口推計を行う予定であり、結果が分かり次第、皆様にご報告させていただきます。

下のグラフには、これまでの34歳以下の人口と出生数を表しています。特に、生まれた子どもの数は、夜須赤岡吉川では、令和4年度から一桁であり3町の少子化が進んでおり、さらに減少すれば保育園や小学校に通う子どもたちが近い将来いなくなることが予想されます。

次に、このページの右半分には、市の財政状況として、毎年11月に公表している中期財政計画を掲載しております。最新の令和6年度から令和10年度までの5年間の収支見通しでは、全ての年度において歳出が歳入を上回り、財源不足の合計は24億円となります。

この不足分は、貯金である基金から補填することとなりますが、この状態が長く続くといずれ基金は無くなります。

令和4年度末の基金残高は、約124億円です。毎年約5億の赤字であれば、約25年で枯渇します。そうならないようにするため、今、市は、一つの取組・手段として合併以降取組が進んでいなかった公共施設等のマネジメント等から、施設の集約化等の計画づくりを進め、実行に移していく準備に取り組んでいます。

また、令和6年度当初予算約212億に対し23%の48億6千万が人件費となっており、将来の財政運営の健全化を確実なものにするためには、事務事業の見直し等にも早期に着手する必要があると考えています。

そして、これからの市の未来において、将来人口推計を見通した中で、今やるべきことを、この総合戦略の委員の皆様と考えていくことが戦略の「ねらい」になります。

次に資料の2ページをお開きください。ここでは、5年度の人口動態を分析しております。左上の社会増減では、平成28年以外は毎年社会増の傾向が続いています。社会増の原因を分析したものが「各種データ」になります。

移住者数については、県や市の相談窓口を通じて移住した方をカウントしており、毎年増加傾向です。5年度は52組86人が市へ移住しております。

前年度と比較した1歳から7歳の子どもの数では、5年度まで、子どもの数は増加しており、6年度では減少しています。

この数値に連動すると思われる、新築住宅の数では、野市地区で3年度から100戸以上の住宅が完成しております。

右にある複数回答の転入者アンケートを見てください。転勤以外では、結婚や子育て、実家への帰郷、香南市が気に入った等が転入理由の上位を占めていることから、新築を建て子育てするファミリー層に人気がある「まち」だと言えます。

その下にある新居に対して補助する結婚新生活の補助金についても、毎年申請者が増えている状況で、5年度は野市で14件、香我美で1件の実績となっています。

また、転勤が一番多い理由となっていますが、市の企業誘致としては、4年度には精密測定機器メーカーのミツトヨや5年度には市と包括連携協定を締結しているイシン株式会社が香南市に高知支店を開所し、市と企業を繋ぐ役割を担っております。ちなみに6年度にも東海理化が香南市へ新工場用地を取得

しており 7 年 7 月から生産を開始する予定となっています。

資料の 3 ページでは、香南市の外国人の推移を掲載しております。

平成 29 年ごろから外国人の人口が本市でも右肩上がりが増えております。

令和 4 年度に減少している背景にはコロナ禍で帰国できない、入国できない等の事情からだと考えられます。

コロナが 5 類になった令和 5 年度からは、急激に増加し令和 6 年度は緩やかな増加に推移しています。

外国人の在留資格を見てみると、約 7 割が就労資格となっており、技能実習としてニラ農家等へ「ベトナム」や「インドネシア」、「フィリピン」等のアジア圏から入国する方が多くなっており、日本一のニラ生産は外国人研修生のマンパワーで支えられている農家さんが増えていると考えられます。

今後、研修生から特定技能の資格を有する外国人が増えてくると推測され、滞在期間も長くなることから外国人の人口はまだ「伸びしろ」があると思われます。

今後は、外国人に関わる施策をどのように展開していくかについて市として、方向性を明確にする必要があるのではないかと考えております。

次に 4 ページをお願いします。このページは、「人の流れをつくる」等、4 つのカテゴリーに分類し、本市が捉えている課題を黒字で、また、課題に対しての対策や考えを青字で掲載しております。

例えば、対策が上げられているものとしては「仕事をつくる」の、5 つめに耕作放棄地に対する課題に対して、青字で「特別栽培米を普及させ稼げる農業を目指していく」となっています。

もっと言えば、学校給食のお米を全て特別栽培米に切り替え、これまで以上に安心安全な給食の提供に繋げることや、販売経路を確保することで、協力農家さんを増やし、稼げる農業へ繋ぐ等の展開を想定しているものです。

次に資料 2 の「これからの総合戦略に向けて」についてご説明します。

これまで委員の皆さんお一人お一人にご説明させていただいた資料になります。若干表現を替えている部分もありますが、資料については要点のみ説明させていただきます。

これまでの総合戦略では、与えられた戦略の進捗シート等の資料からご意見やご感想をいただき、施策の見直し等に繋げていくことをしておりました。

ここでの反省点としては、十分な議論をしたい場面もありましたが、資料の説明に要する時間もあり、時間の都合上、会議終了後にご意見を頂く等して、対応しておりました。

これまでの会議の持ち方が悪いわけではないですが、もっと委員皆様のご意見を引き出せる場面があれば、さらに有意義な時間を共有できると思っており、会議の進め方を改善したいと考えておりました。

そこで、今回からは、委員の皆さんのご意見を十分に引き出せる手法としてワークショップを開催し、その中で出された課題や対応策を中心に、第 3 期の計画を作り上げることを目指しております。

事前学習として先ほどご説明させていただいた子ども達のアンケート結果や人口分析から人口減少、少子高齢化に向かっていく「まちの姿」を想像していただいた上で、本市が抱えている課題を委員の皆様に共有し、「委員ご自身が共感することは何か？」また、「委員の皆様がこれまで経験したこと等から普段感じておられる課題」を引き出すことで、真に取り組むべき課題が見えてくると考えております。

第 3 期に向けた考え方ですが、「1」にある 2060 年に 30,800 人という目標に対する施策を考えるよりも、確実に人口減少する町の姿を受け入れ、そこで暮らす市民の幸せを第一に考えることが、将来のまちづくりに繋がると考え、2 点に関することから戦略を練りたいと考えております。

それは、「人口減少を抑える観点」と「人口減少に備える観点」の両輪で次期総合戦略に取り組むことです。「抑える観点」とは、特に県の人口減少対策交付金の要件としてあることから、高知県全体で危機感として捉えている 34 歳以下の人口をこれ以上減らさない対策です。

34 歳以下に注目する理由としては、将来の担い手となる若者の人口減少が進んでいる状態であり、若い世代を本市に引き留める、若しくは帰ってこられる状況を作らなければ、生産年齢人口が落ち込むことで、人口減少がさらに加速化するからです。現に、中山間地域では若者がいない、子どもがいないといった声も聞いております。若者が生まれ育った地域で幸せを感じ、暮らせていける「まち」にすることを今まで以上に取り組んで行かなければならないと感じております。

また、「備える観点」では、今以上に減少する人口を見据えた中で、将来のために今からできることを考えていきます。人口分析でも紹介しましたが、25 年先の本市の人口として特に夜須、赤岡、吉川において

は、今の人口の半数になる予測となっています。そうすると「まち」の状態はどうなるか。空き家や耕作放棄地が増え、地域コミュニティが崩壊する等想像できると思います。そうした状況を予測した上で、委員の皆さんには、私たち行政と一緒に考えていただきたい。

次回の策定委員会では、ワークショップを行い、課題解決に向けた深掘りや提案をしていただき、実効性と実行力のある本市の施策へと作り上げていくことを目指します。説明は以上です。

(石筒委員長)

ありがとうございました。

それでは議事の 2 番目、高知県の取り組みに関して江口委員よりご説明をお願いします。

(江口委員)

私の方からは、先ほど香南市の総合戦略という説明がございましたが、県におきましても、同様の総合戦略というのがございます。

資料 3 になりますが、県の場合も「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という名前でしたが、本年度より新たな戦略が策定され、名称が「高知県元気な未来創造戦略」という名称に変わっています。

平成 27 年度から第 1 期。令和 2 年度から第 2 期として取り組みを進めて参りました。

第 1 期では、地産外商の効果で経済成長がプラスに転じる等、各種の経済指標等で成果が見られたというものがありませんでしたが、人口減少の改善という効果には至っておりません。

第 2 期の総合戦略では、高知県の人口減少という部分につきましては 4 つの柱を掲げて取り組んでおりまして、これは香南市さんも掲げられている 4 つとほぼ同じような内容だと思います。

外商による魅力のある仕事をつくる、或いは、人の流れをつくる、或いは、若者が住み続ける地域をつくる、そして、結婚・妊娠・出産子育ての希望をかなえる、女性の活躍の場を拡大するというような、これまでは大体どこの市町村も同じような項目で目標を掲げてやってきたのかなというふうに考えております。

2 ページ下段の表には、国立社会保障人口問題研究所、俗にいう社人研というところの高知県の人口推計になります。

何と 2060 年には、高知県の人口は 40 万人を切る水準になるだろうというような推計を出されており、県としましては、先ほどありましたような一連の対策をできるだけ早い時期にやることによりまして、将来的には、人口増加に転じるような計画を立てるということで、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というものに取り組んで参りました。

次のページには、第 2 期の 4 つの目標に対して、すごく簡単に申しますと、左上の地産外商による魅力ある仕事をつくるということでは、4,000 人の雇用創出目標に対して、約 3 年半で 2,000 人弱というカーブが描かれておりますが、これは新型コロナウイルス感染症の影響というのが大きかったということで目標の達成ができてないということを示しています。

また、この資料左下の新しい人の流れをつくるというところですが、先ほど香南市さんの説明でもありましたが、人口の社会増減が示されています。

就職や進学等による転入転出について、非常に香南市さんは恵まれた感じで、転入が多いですが、これは全国的にも非常に珍しいことで、高知県全体では、例えば平成 26 年から 30 年の間は社会減ですけれども、大体平均いたしますと年に 1,700 人ぐらいが減少しておりましたが、令和 4 年度は 324 人ということで、すごく良くなったということになります。実はマジックがありまして、先ほどお話がありましたが、昨今、非常に外国人労働者が増えておりまして、本県におきましても、日本人の転出は収まっていないですが外国人がそこを埋めているというような状況があり、移住者も増えておりますし、外国人が増えていますが、若年人口の流出という部分がとても大きいという状況は変わっておりません。

この資料の右上、結婚・妊娠・出産・子育てで女性の活動の拡大というところでございますけれども、こちらは、市長の方からもお話ありましたように、非常に出生数が減っており、令和 4 年の数は 3,721 人、県としては過去最少、また、全国でも最少というふうに先頃発表されました。また、令和 5 年の数字も 3,380 人と、これは令和 4 年の最小の数からさらに約 340 人少ない数字となりますので、人口減少待ったなしの状況がこの資料からも読み取れます。

最後に右下の中山間地域についてですが、中山間地域でありますと人口減少や少子高齢化に歯止めがかかってない状況で、そういう中山間地域では、集落の活力の低下や産業の衰退、暮らしの不便を招い

て、さらなる若者の流出に繋がるという状況になっております。

次のページでは、先の状況を受けまして、脱却するために県としては、より人口減少対策に重点を置いて、若年人口の減少をできるだけ早期に食い止めまして、持続可能な人口構造に転換していかなければならないということで、将来を左右する人口減少問題を県政における喫緊に取り組むべき最重要課題と位置付けをしまして、抜本的に政策を強化しており、こうした考えのもとで、もともと「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という名前で作っていたものを全面的に改定しまして、人口減少対策のマスタープランとなる「高知県元気な未来創造戦略」ということで、非常に人口減少対策に舵を切った戦略を立てたということで、この戦略によりまして、上から 5 行目あたりに赤字で囲んでいる部分になりますが、若年人口の増加というものを目指すとしています。

若年人口、或いは就業者数については、向こう 5 年までに歯止めをかけて、概ね 10 年内には令和 4 年度の水準、数字まで回復をさせるということを県の最大の目標にして取り組んでいくとなっています。

若者の定着、増加、そして婚姻するかどうか、そして出生数の増加をやっていく。そのための施策として、その下に政策 1、政策に政策案ということで、先ほどありました 4 つの取り組みもありましたが、高知県の場合は特に、示されている 3 つ、特に若年人口に対して、対策をとっていくということになります。

この 3 つのうち、まず魅力ある仕事をつくるというところでございますが、あまり細かい説明はいたしませんけれども、特に大きな方向性として、若者に選ばれる魅力ある仕事も大幅に、そして若手を中心とした人材を確保するというのがございます。

そんな中で、前者においては、県内事業の魅力向上、起業の促進、或いは、若年層の雇用の受け皿となる企業誘致を進めます。また、後者では、若者中心の人材確保では、県内の就職の促進、或いは移住の促進、そして先ほどありましたけど外国人の活用と活躍というような部分の推進を図っていく必要があるというところでございます。

次のページ、施策の 2 としまして、結婚の希望をかなえるというところで。

県といたしましては、出会いの機会の創出ということで、いろいろなイベントによって出会いの機会の創出を図り、さらには結婚支援の推進というところの中で、高知でサポートセンターというのがありますけども、そういうところに新たにコンシェルジュを配置したり、或いは、地域のボランティアの方に協力をいただきまして、できるだけ結婚の数を増やしていく取り組みをやっていきます。

6 ページでは、3 番目としまして、子どもを産み、育てたい希望をかなえるという政策ということで、大きく理想の出生数を叶える施策の推進と住民参加型の子育てしやすい地域づくりということになります。

前者では、不妊治療や産後ケア、多子世帯への支援の充実を図る。そして後者では、行政・地域・企業等も含めました、子育てできる体制や支援ということで取り組んでいきます。

この県の取り組みというのは県単独ではなかなかできないので、やはり市町村とも連携をしながらやっていくということになります。

最後のページには、高知県人口減少対策総合交付金とありますが、市町村毎にニーズが違うといいますが、県全体で取り組むこともあれば、個々の市町村のニーズによって増やしていくべきところというのがあるということで、そういうものに関しましては、今年度から県の方では交付金を設けまして、市町村がより力を入れたいところにお金を交付するという制度も作っております。

この人口減少というものを、特に香南市は他市町村よりも非常に恵まれた条件ではありますけれども、先ほどもありましたように、社会増減の中で増になっている部分には外国人が関係している部分もありますし、現実問題として若者の転出という部分はあり得ることだと思っております。

ぜひ、この人口減少対策、高知県の最大重要課題がございまして、その部分に関して、皆さんからご意見をいただきたいというように考えてます。

昨晚、テレビ番組で、まさにこのことをやっておりまして、行政が考える計画では、若者や女性の意見を聞いていないのではないかという批判も出ておりました。

ぜひ、皆さんからご意見、先ほどありましたワークショップも含めまして、様々なご意見をいただいて、ぜひ香南市さんの計画、さらにはそれが県の政策にも反映できるような形をとっていきたいというふう考えております。

取り組み始めて当面は、人口減少は止まらないと思いますし、生まれてくる子どもの数より、圧倒的にお亡くなりになる数の方が多いので、減少することは仕方がないですけども、この社会減というものを止めたい。いうところがございます。

若年人口を増やしていくというところの中で、ぜひ皆さんのご意見いただきたいと思います。

(石筒委員長)

ありがとうございました。みなさま方がでしょうか。

最後に質問等の時間もとりますので、ありましたらよろしくお願いいたします。

続いて、DX の事例に関して、中道委員、お願いいたします。

(中道委員)

皆さんこんばんは。改めまして、中道と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

ご存知の方もいるかもしれませんが、私は 2018 年から 2021 年にかけて、3 年間、あるテレビ局の高知放送局に勤めていました。夕方 6 時 10 分からの番組でキャスターを務めておりました。

その中で、高知大学の受田先生にもお世話になりまして、ご縁があって、今回この委員をお引き受けさせていただきました。

現在は、首都圏の IT や経営のコンサルティングをしている企業に勤めており、自治体さん向けに育成支援等のお手伝いをさせていただいています。ただし、前提として、この会は、私個人として参加をさせていただいております。

本日は、私の経験の中、この DX 事例というものを皆さんに紹介させていただいて、この新たな策定予定の 3 カ年計画を、戦略の具体的な施策をどうすればいいのかというイメージを持っていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

資料は資料 4 というものでご説明いたします。

先ほどより何度も出てきましたけれども、県の江口委員、市の近藤課長補佐からもありましたが、国が示している 4 つキーワードになるかと思います。

今後の委員の皆さんの議論からも出てくると思いますが、人の流れをつくる、魅力的な地域をつくる、仕事をつくる、そして結婚・出産・子育ての希望をかなえる、この 4 点があります。

この一つ一つに対して、香南市の皆さん、そして高知県さんも課題、そしてその政策等は決定していますが、具体的に何をすればいいのかっていうこと。その一つの手段として、DX や IT というものが進んでいます。

その施策を皆さんに少しご紹介させていただいて、議論の素材にしていきたいと思います。

まず、資料でお示しているのは、先のお 2 人からお話があったとおり、人口減少に歯止めをかけるために施策を進めたものの目標到達というのは難しくなっています。

具体的に香南市では、30,800 人を 2060 年の人口目標を設定しましたがけれども、現在の見立てでは、およそ 2 万 4700 人となっているわけです。それを解決するために具体的に、私も含めて委員の皆さんとこの戦略をどうすればいいかってことを考えていくわけです。

その一つの施策として、DX、IT というものが使えるということで、皆さんで共有したいと思います。

ちなみに DX という言葉を皆さんは聞いたことありますか。何となく聞いたことありますかでしょうか。DX とは、デジタルトランスフォーメーションの略となります。

IT ツールを使い入れることは、導入ではなくて、デジタルツールを使うことによって、住民サービス、住民の皆さんがより生活しやすいって思っただけなのか、自治体の中ですと、組織変革しやすくなるとか、そういったことに繋がるわけで、ただツールを導入するわけではありません。

組織や文化の変革等を目標とする DX になっています。

国は DX について、地域社会の DX と自治体の DX に分けていますが、自治体 DX で言いますと、自治体の職員の皆さんの業務効率化を図るためのデジタルツールの導入ってありますが、今回皆さんと協議したのは、この地域社会の DX についてになります。

先ほどお伝えしましたとおり、人の流れをつくる、仕事をつくる、魅力的な地域をつくる、そして、一番の課題でいえるでしょう、結婚・出産・子育ての希望をかなえると、こういったことに対して、実はすでに各自治体でデジタルツールを使った例というものがあります。

この議論の一つの参考として、こういった例があるというのを認識していただければと思います。

一つ一つ事例を設けてきましたが、今日は特に、子育て、また、結婚・出産という文脈で、ご紹介できるものをご紹介したいと思います。

※ 以下、資料 4 の内容についてご説明いただく。

- ・ 香川県三豊市 : 複数の通所介護事業所での利用者協働送迎サービスの事例

- ・ 静岡県御前崎市：アバターによる庁内総合窓口案内の事例
- ・ 熊本県大津町：SNSを活用した道路異常の通報と解決の迅速化の事例
- ・ 山梨県北杜市：メタバース婚活の事例
- ・ 北海道岩見沢市：SNS すこやか健康手帳の事例
- ・ 佐賀県佐賀市：独自アプリを通じた幅広い行政サービスの提供の事例

改めて本日お伝えしたかったことは、こういった目標や課題がある中で解決する施策の一つに IT ツールというものがあります。

この IT ツールというのは、大きな人口を抱えた自治体さんの取り組みということではありません。

先にご紹介させていただいた自治体さんは、香南市と同様に 3 万人規模の自治体もあります。つまり、同様規模の自治体さんで行っているというところがまず 1 点目。

その上で、これから私たちがディスカッションをしていく中で気をつけなければいけないのは、すぐに「SNS を活用すればいいじゃないか。」といったわけにはいかない。なぜかと言いますと、私たちは、来年から向こう 3 カ年の戦略を立てる中で、ディスカッションというのをしていきますが、香南市がこういった形の町であるべきかと言ったことを、一緒に考えていくと、その「あるべき姿」があって、「課題は何か」と整理をしていく、そのうえで「その課題を解決するために、こういったツールがある」と。

伝えたかったことは、今どんどん技術が進化して、ツールはいろいろあります。価格もどんどん下がっています。使いやすくなっています。しかし、課題が何か、私たちの香南市、私たちの今いるこの香南市のあるべき姿は何か、といったことを誤るとツールの使い方も誤ってしまいます。

こういったツールあります。すごく今、心強い時代になっていると思うのですが、これから先、来月以降もディスカッションがありますけれども、委員の皆さん、そして話を始め、香南市の皆さんと、ディスカッションしつつ、まずは、香南市のあるべき姿というものをしっかりと固めたうえで、このツールの導入の議論についても行いたいと思って本日お時間をいただきました。ご清聴ありがとうございました。

(石筒委員長)

中道委員ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

最後、議事の 4 番目ですけれども、次回の策定委員会のワークショップの進め方についてとありますが、私の方で説明をさせていただいて、小林さんにも補足をいただければと思います。

本日、アンケートを紙ベースで配らせていただきました。

次回のワークショップの流れについては後半で説明します。

まず、本日の会の後、委員の皆さんには、アンケートにお答えいただくということがあります。

結構たくさんの量がありますが、このアンケートの基本的な構成は、資料 2 の裏面に記載されている太字のものや様々なフォントのものがありますが、ここの内容が抽出されています。

このアンケートの構成というのは、これで、例えば一番上の「U ターン者が地元へ帰って暮らせる環境がない」と委員が思った場合、これは課題だと思われる場合は、チェックをつけて、その次にそれについての理由や経験等をお書きくださいとありますので、そこを埋めていくというものになります。

そして、最後に、それに対して、いろんなご提案等をご記入くださいということで設問が続いていきます。

最初の設問でチェックをすると、その後の設問でたくさん書かなきゃいけないじゃないかっていう部分がありますが、どちらかというと、率直にやっぱりすべて感じている課題だと思われる場合は、しっかりとチェックをつけていただいた上で、実際にその理由や策をご記載いただきたいと思います。

特に「提案」というところまではなかなか出てこない可能性もありますが、あればどんどん書いていただきたいと思います。これが最初の基本構成になっています。

次の項目では、チェックを入れた項目とは別で感じている課題というものがあれば教えてくださいという設問になります。ここが実はかなり重要で、先の設問は、市職員が日頃業務をやりながら感じていることがそのまま書かれている部分ではありますが、こちらの設問は委員の皆さんが感じられたことを書いていただくということで、いきなり言われてもなかなか出しにくいということはあるかもしれませんが、皆さんが感じられた、例えば違和感とか、いやこれ以外にもあるよねとかあれば、これは確かにそうだが、

とかってというようなものがあれば、それをそのまま、なかなか言葉にするというのは難しいかもしれませんが、キーワードでもいいかもしれませんし、文章でももちろんいいので、何か記入していただけるといいのかなと思っています。その上で、ここは一番、実際皆さんがお書きになる際に、なかなか書きにくい部分もあるのかなと思いますが、それぞれのお立場、ご経験で、感じられていることを書いていただくということで、方向性あって、課題、理由背景、それからそれに対する対策とか何かないかというようなことがセットになっていますので、これも幾つか書いていただいてもよろしいかと思います。

その次に、先ほどの資料もありました若年層の課題というのを特別に分けておりますので、ここに関して、事業についてご提案くださいってありますけれども、そこまでいってなくても、いろいろ、こういうのは課題だと思っていて、こんなふうなのが必要だ等、いろいろなご意見がここにあればいいのかなと思います。

皆さんのご経験をもとに書かれてもいいと思いますし、普段、日頃から感じられてるようなことをご記入いただきたいと思います。

この一連の流れがワンセットになっていて、これが4つの項目になっている構成です。かなり自由な設計にはなっていますので、ぜひお答えいただければと思います。

(企画財政課 小林係長)

急にアンケートをやってほしいというご依頼から入っており、大変恐縮ですが、石筒委員長からお話をいただいたとおり、市の方で思っている課題とみなさまが思っている課題に、同じものもあるでしょうし、こちらがまだ気づけていない部分もあると思います。

その部分をまずは抽出し、行政としても、課題の把握を行い、そして対応できるかの検討も進めながら、当市が持続可能なまちとしてあり続けられるようにしていきたいという思いを持っています。

言い方はおかしいかもしれませんが、いただいたものを、玉にしていこうとか、そういった形ができればという思いを強く思っています。少しボリュームもありますが、設問や記入例等、いろいろ書いてはいるものの、これに捉われずに、本当に自由な観点で、日頃のご経験等を踏まえた上で、課題となっているもの等をお書きいただきたいと思います。

ただ、大変恐縮ですが、「〇〇の近くの市道に穴があいている」等はごめんなさいというところで、課題のご記入をいただけますと幸いです。

また、お答えいただける際に、「ちょっとここがわからない」等の疑問・質問がございましたら、当課までご連絡をいただければと思います。

(石筒委員長)

アンケートにお答えいただいた後に、次回の策定委員会がワークショップ形式になっている。

資料5の裏面に記載があるとおり、当日は、このような机の配置をしておきます。

ワークショップのやり方だが、1班に、委員の方3名と市の職員が1名入って、4名1班体制が組まれます。ここに各課の名前がありますが、課長さん等に入っていただくということです。

各班が各ブースを周り、合計4回、各項目についてご議論いただくというようになっていて、1回当たり約30分で皆さんのご意見を、この先ほど4つの項目ありましたが、そこに応じて入っていくというやり方になっています。

班の構成だが、実は、本日の皆さんの名札が色分けされています。色ごとに、同じ班になりますのでご理解ください。そこに、市の職員も各班に配置されます。

アンケートに先にお答えしていただいて、これを市がまとめ、当日は、各項目のブースにホワイトボードを構えておき、そこに打ち出したものを貼っておきます。

その内容については、各ブースに座る課長さんも事前に把握していて、質問したり、これはどういうことがですかって詳しい説明をしていただくとか、そういった時間になろうかと思っています。

一つポイントとしては、通常こういう会だと、一人一人が意見を言って、大体終わる等しますが、班の3人の委員の方がずっと回られて、この30分ごとという、非常に短い時間ではありますが、委員同士でも、いろんな話を聞きながら、そこから、こういうこともあるねということ、この場で議論できるようなことができたというふうにも感じています。

このところは一人一人がしゃべるっていうような形もあろうかと思いますが、それぞれいろんな進め方

でもいいのかな。

当日は、各ブースの真ん中に座られる課長さんが司会進行役ということになります。

口火を切られるお立場に近いようなことをしていただいて、各班に入る市の職員は、委員の皆さんの意見を記述していくような役割を担っていただきます。

委員の皆さんは、アンケートに答えられた内容についてお答えいただきながら、これはどういうことですかみたいな議論をしていく形のワークショップを今のところ想定しています。

私と副市長と江口委員は、適宜いろいろ班に入りながら聞くという形でいきたいと思っています。

ちょっと今の説明ではわかりにくいかもしれませんが、なかなかハードだなと思いながら、30 分間、途中休憩も挟みますけれども、このテーマごとにお話していこうというやり方になっております。

当然アンケートの内容を全てその時間、30 分で網羅することは難しいと思いますけれども、実際、各ブースの課長さんが、ここはぜひ聞いておきたいところを優先的に聞きいただいて、時間がない場合は、別の時間帯でいろいろ聞いたりとかってこともできると思いますので、この形で次回進めさせていただこうと思っています。

(企画財政課 小林係長)

みなさまにお願いしたいことということで、委員長よりアンケートの話をさせていただきました。

メール等でやりとりをさせていただける委員のみなさまにおかれましては、本日中にこのアンケートをお送りさせていただきますので、大変タイトで恐縮ですが 6 月 25 日までにメール、または FAX 等で、当課までご提出をいただきたいと思います。

紙媒体等で出されるようであれば、当課、またはお近くの各支所でも構いませんので、そちらの方に申し訳ないですが、お出しいただければと思います。

(石筒委員長)

ご協力よろしくお願いいたします。

なお、本日は、次回のワークショップに入っていただく 4 名の職員の方にもご参加いただいておりますので、ご紹介いたします。

※ 職員 4 名 自己紹介。

(石筒委員長)

今回のこの総合戦略の中では、若年層、若い世代の人口に関してのトピックもあって、この市役所でも比較的若い世代の方に参加をしていただいて、一緒に議論に加わっていただこうと思い、ご協力をいただきます。

ただし、ワークショップ当日は、どちらかというと、意見を出す側というよりは皆さんの意見を聞きながら、ちょっと補足をしたりとかそういうような役割もあろうかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今日はこれで終わりになりますが、全体を含めて、ご質問等ございましたらお願いいたします。

(門田委員)

本日、デジタルのお話も聞かせていただいて、今後のお話も、皆さんの力が合わさって、新しいものになっていくのではないかなというふうに期待をしています。

早速このアンケートの方がありまして、これは一つ、今後の提案としてちょっと聞いていただけたらなと、参考にさせていただけたらなと思ひましてお話をさせていただきます。

デジタルの話もありましたように、これからこういうアンケート等も、正直、今、何でもデジタルで簡単にできますし、無料でできます。

私も自分で LINE やグーグルフォームを使ってアンケートを作ってやるとですね、例えば 10 人ここにいたとしたら、それをパワポで来て、紙で来て、それを市の誰かがまとめるというふうになると非常にしんどい思いをしながら、まとめていかないといけない。

これからこういう会議を続けていく中で、誰か 1 人に負担がかかるとかっていうのも何か僕らも嫌な思いもありますし、それが例えば、グーグルフォームに入れてもらったら、一瞬でまとまって、すべてが一つに繋がったものででき上がるということもできます。

今の時代、お金かけないといけないってことじゃなくて、無料でもできる。

セキュリティの問題等、いろいろあると思いますが、そういった対応もできると思うので、これからの香南市を新しくしていかないかんっていう思いで委員も集まっているところでありますので、できる方・できない方もいるかもしれませんが、何か一つチャレンジしてもらって、この策定委員会だけでも、そういう何かデジタル化に取り組んでみて、取りまとめに1日かけるところが1時間で終わったら、非常に皆さんの仕事も次の新しいことができるようになると思いますし、本当に何か皆さんと協力しながらデジタルを使いながらやると、もっともったいいものになっていくんじゃないかなと思うので、今後こういうアンケート等があった時には、ぜひそういうのも参考にさせていただきながら、取り組んでいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(石筒委員長)

ぜひやっていく。

この設問量のアンケートでしたら、すぐにグーグルフォームが活用できます。

(企画財政課 小林係長)

ご提案ありがとうございます。

担当課とも相談させていただきます。ありがとうございました。

(北山委員)

次回のワークショップのやり方だが、同じ色の人がずっと4つのテーブルをセットで動いていく形式でよいでしょうか。

4つを周りながら、メンバーを変えたりとした方が、いろいろな委員と意見交換ができると思ったのですが、何か違うねらいがありますか。

(石筒委員長)

そういった内容も話し合った。

どっちがいいかという部分があり、徐々に慣れていくパターンと移動するパターンで話し合い、結果、今回に関しては、同じメンバーで徐々にお互いが慣れていくやり方にしている。

今回のテーマや進め方は複雑なので、言われるようにクロスしながらやっていくのはなかなか大変ではないかというのもあるって、今回の方法に着地をした。

3回目以降の策定委員会では、ワークショップという言葉がスケジュールの中にはないですが、グループワーク的に話し合いをしていくということもあろうかと思う。

行政サイドとは、今回の会以外に、個別に委員さんにお集まりいただきながら進めていくのはどうかという話し合いも行った。

策定までの時間の中で、議論の進め方をどうしていくかは調整が必要だが、今回はこの固定式で進めていきたいと思っている。

他にご意見がないようであれば、一度マイクを事務局にお返す。

6. その他

(企画財政課 小林係長)

本日は長時間にわたりお時間をいただきありがとうございました。

また、説明ばかりの会となり申し訳ございませんが、次回のワークショップでは、思いのたけをまずはアンケートでご提出いただいて、それをまとめておきますので、忌憚のないご意見をいただけたらと思いますので、アンケートも含めて、ご協力をよろしくお願いいたします。

先ほど、北山委員の方からお話がありましたが、今後のスケジュールについて再度触れさせていただきます。

最後の資料につけておりますが、本日がこの1回目の会となり、2回目は2週間後になります。

長時間になりますが、ワークショップを考えてございます。

3 回目の 8 月 26 日までは、みなさまの方へご予約をお伝えしてございますが、その後の 4 回目、2 月の 5 回目の部分に関しましては、日程を入れていますが、あくまでも仮の日程を入れていきますので、近くになりましたら、ご連絡をさせていただきます。ご了承ください。

また、策定委員会の内容の部分に関しても、またワークショップが行われる、または、議論する場というのを構えるかもしれませんのでご了承くださいと存じます。

それでは、最後になりますが、閉会に当たりまして、副市長の方よりご挨拶をお願いいたします。

7. 閉 会

(別府副市長)

皆さん本当に今日のご苦労さまでした。

長時間、本当に説明ばかりで申し訳なかったと思っています。大学の講義みたいな感じで、違った雰囲気やったかと思いますが、今後の戦略に向けるその意気込みというのは本日伝わったのではないかと思いますので、2 週間後に、アンケートという宿題のような形になってしまい申し訳ないですが、そちらもご提出いただいて、次のワークショップで、ぜひ様々なご意見もいただき、議論をさせていただきたいと思っています。

ぜひ、より良い総合戦略にしていきたいと思っていますのでご協力をよろしくお願いしたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

以上